

読む得! 在宅医療と介護の連携

～身近な事例から～ 第9回

－服薬管理の支援－

関係者の連携と工夫で、薬の飲み過ぎを防ぐことができたケース

認知症がある1人暮らしの80代前半の女性は、ポケット付きカレンダーに薬が準備できる「お薬カレンダー」で服薬の管理をしていました。しかし、認知症の進行により不安感が高まり1日に何回も服薬したため、副作用によるめまいやふらつきが起きていました。そこで、ケアマネジャーや薬剤師などが集まって、適切に服薬できるよう役割分担などを話し合いました。

その後、薬剤師が週1回訪問し、数日分ずつお薬カレンダーに薬を入れ、服薬状況の確認を行いました。他にも週4日、デイサービスの担当者、訪問介護ヘルパー、訪問看護師が服薬確認を行うことで、適切な服薬ができるようになりました。



☆ポイント☆

- ・薬剤師は薬の配達だけでなく、正しい服薬のための相談や工夫を、自宅に訪問して行っています。
- ・正しく内服できないなどの心配がある場合は、かかりつけ薬局や担当医、ケアマネジャーに相談しましょう。